

## ウィルバー ホロン論

アーサー・ケストラーが創り出した言葉。ホロンという言葉は、hol (=全体) と on (=部分) からつくられています。この世に存在しているすべては、『部分/全体』からなりたっているという意味です。一個の全体である原子は分子の一部分であり、全体としての分子は細胞の一部分であるようなありかた。あらゆる存在はホロンである。

ウィルバー ホロン論 (文責：天野)

ホロンとは

- － 「進化の構造」を少し読んだみたいだから、ホロンの所を覚えている。
- － 最初少し読んだけれど、わけが分からなくなるとばしてしまったわ。
- － ホロンというのは、アーサー・ケストラーが創り出した言葉なんだ。ホロンという言葉は、hol (=全体) と on (=部分) からつくられているんだ。
- － どうしてこんなホロンなんて言葉を思いついたのかしら。抽象的で私たちの生活から遠い感じがするのだけれど。
- － 私も最初読んだ時そのように感じたよ。でもケン・ウィルバーは世の中のすべてのことをもっとも説明できる概念を求めてこの言葉にであったのではないかな。物理学も心理学も文化も経済もあらゆることに通用する共通の概念が必要だったんだ。初期の頃から例えば、前個、個、超個というように人間の発達を見る視点はあったんだ。それを「進化の構造」のなかですべてに共通するホロンという概念に到達したんだ。その意味でケン・ウィルバー自身もホロンのにより創造的・総括的になっている気がする。
- － そうなの。
- － この世に存在しているすべては、『部分/全体』からなりたっているということを、物理では例えば、原子が1つあれば全体であるけれど、分子の一部を構成しているので部分なんだ。それからあなたにあてはめると、あなたは一人の人間としては全体だけれど、人類全体から見れば部分なんだ。この世に存在しているものはすべて『部分/全体』なんだ。
- － 何となくわかったような気もするわ。
- － ケン・ウィルバーはホロンには20の原則があると言っている。ホロンの第1原則は、アリティー (実在) はホロンから成り立っているということ。古いジョークで説明しよう。  
ある賢者の元を訪ねて、地球が落下しないのはなぜかと国王が尋ねました。賢者は答えます。

「地球はライオンに支えられている」

「では、ライオンは何に支えられているのか」と国王はさらに訪ねます。

「ライオンは象に支えられている」

「象は何に支えられているのか」

「象は亀に支えられている」

「では・・・・・・」

「そこでおやめなさい。あとはずっと下まで亀、亀、亀なのです」

ずっと下まで亀、亀、亀、ずっとホロン、ホロン、ホロン。いくら下に降りようと私たちが見いだすのは次々にホロンに支えられているホロンなのだ。それは無限に続く。また逆にずっと上までは無限に果てしなく決して究極の全体には到達しない。コスモスの全体でさえ、単に次の瞬間の全体の部分なのだ。

— そういえば、この前ノーベル賞物理学賞を受賞した益川さんと不破さんの対談を読んだのよ。同じようなことが書いてあったわ。

— どんなこと。

— 物質には『無限の階層』があるとか言っていたわ。妙に頭に残っているわ。

— 2009年1月25日の赤旗日曜版に、ノーベル賞物理学賞を受賞した益川敏英氏と不破哲三氏の対談が載っていたね。

「物質とは何か、という問題にたいし、坂田さんは物質には『無限の階層』があるという考え方を一貫して提起していました。原子、原子核、素粒子は、物質のそういう「階層」の一段階でその奥にはさらに深い「階層」がある、という考え方で1955年の坂田モデルは、この考え方に立って素粒子の奥の「階層」を探求しようとした世界でも最初の提唱であったと思います」と不破さんが述べている。この物的世界を無限の階層構造として見る観点からすると、ケン・ウィルバーと現代物理学の最先端の考え方は、同じ立場なんだ。

— 現代物理学の最先端の考え方は近代的な科学とずいぶんちがうように思うわ。

— ケン・ウィルバーは、徹底したホラーキー＝階層制をモデルとした世界観を提起しているんだ。ウィルバーは、この階層制を極大、極小に至るまでそれぞれの実体をホロンと名付け「含んで超える」ホロン階層（ホラーキー階層）になっていることを述べている。ケン・ウィルバーの特色は、ホロンを物質世界のみならず、生命世界も、あるいは心も文化などの「間主観的世界」もまたホロン階層になっていることを『進化の構造』の中で精緻に論じている。まさに万物の基礎理論になっている。

## 含んで超える

— ほかに大事な原則があるの？

— 進化は、ある面で自己超越のプロセスなんだよ。それは常に先行していたものを乗り越える。

— 例えば

— 単純な例で言うと、細胞はその分子を越えるがそれら分子を含む。分子は原子を越えて含み、原子は粒子を越えて含み。それから人間の発達について考えてみて、幼児期から児童期そして青春から壮年期へホロン構造になっていることを詳しく述べているよ。ケン・ウィルバーはもともとトランスパーソナル心理学から出発しているので、見事な説明になっているよ。また、地球の歴史を物質圏、生命圏、心圏というようにホロン構造に

なっていると説明している。ロシアの人形にマトリョーシカという人形があるだろう。あの人形のように外側の人形は内側の人形を含んでさらに大きいものを付け加えていく。まさに入れ子構造なんだ。

ー 進化するということは自己超越をすること？

ー そうなんだ。自己超越しようという働きは、例えば先ほど言った地球の歴史だと、物質から生命を、そして生命から心を生み出す。逆ではないんだ。物質がなければ、生命もないんだ。生命がなければ心もないんだ。下を消したら上のホロンは成り立たないだ。

ー ほんとうだ。はじめて気がついたわ。

ー 進化のプロセスは自己超越しようという働きから生み出される。ポイントは、すべてのホロンは部分／全体なので、全体性は超越するが、しかし部分は包含されます。この超越において、寄せ集めが全体へとダイナミックに創造的に変化する。全体に包み込まれた部分は等しく大事にされ、それぞれを断片であることの重荷から免れさせる空間の中に結びつけられる。進化・超越は、含んで越えるプロセス。それは、まさに働いているスピリットの核心なんだ。ホロンはホラーキー的に出現する。ホロンはその前のものを含んで越える。

ホロンは4つの力

ー ホロンは変化するの。

ー もちろん変化するよ。この世の中でずっと変化しないものなんかないよ。ケン・ウィルバーは、すべてのホロンは4つの力を引き受けると言っている。

ー 4つの力ってどんな力？

ー ホロンには、他のホロンと交流・協力しようという働きと、自立しようという働き、そして超越しようという働きと、崩壊しようという働きの四つの力が働いているんだ。

ホロンと交流しようという働きと自立しようという働きが水平方向に働く力にたいして、超越しようという働きと、崩壊しようという働きは垂直方向に働く力なんだ。

ー 水平の働きは？

ー 人間の個体ホロンも、他のホロンと交流・協力しようという働き＝コミュニオンと自立しようという働き＝エイジェンシーの二つの側面をもっている。「権利と義務」「自由と責任」「自立と連帯」「自律と協力」などの対の言葉は、人間ホロンがもつエイジェンシーの側面とコミュニオンの側面を表現したものなんだ。例えば、原子はそれぞれが独立しながら協力して新しい分子を生み出す。そして分子が協力して細胞を生み出す。そこには美しいハーモニーがある。コスモスの原理であると同時に宇宙の英知を感じる。この原理を人間同士のかかわりにも組織にも応用できる。他者とどのような関係を築くかといった時に、交流・協力しようという働き＝コミュニオンの働きが大切になるね。それぞれが自己決定権を持ちながら、対等平等に関係を作っていくコミュニオンとエイジェンシーの原理が、人間の組織にも貫徹することが自然なんだ。家族・地域コミュニティー・

国・国を超えた協力する組織というようにホロン構造になっている。そのなかで、ある部分だけが力を持つと、他のホロンを抑圧する組織になる。現代では国が肥大化しているの、よりより地域に自己決定権が必要だろうし、環境問題を解決するためには、国を超えた組織がもっと力を持つ必要があるだろう。

ー コミュニオンとエイジェンシーの原理は納得できるわ。派遣も問題や人生のいろんなことを考える時に役立つと思うわ。超越しようという働きと、崩壊しようという働きって何。

ー 超越しようという働きは、例えば酸素原子一個と水素原子二個が結びつくと、水になるね。水素とも酸素ともちがうまったくあたらしいホロンが出現したことなんだ。これは、他のホロンと交流しようという働きとも自立しようという働きとも違って、新たな全体を形成する。いままでになかった創造的な力が働いているんだ。この働きを超越と呼んでいる。進化には連続性だけでなく非連続性も存在している。崩壊しよう という働きは超越と逆で、水が酸素原子と水素原子にバラバラになることなんだ。

## ホロンと4象限

ー ケン・ウィルバーが4象限って言っていたけれどどんな考え方。

ー ホロンは心の内側と外側、そして個体と集合体の二つの軸で考えるんだ。人間存在を考える時、個人の心の領域、個人の心の外側の領域、集合体の心の領域、集合体の心の外側の領域、四つ領域を明確にすることが大事。この四つの領域を四象限と言う。この四つの領域は一つのものとして展開しているので、問題を考えるにあたって、四つの領域すべて考慮に入れることが必要なんだ。

ー 全部が大切だということ？

ー そうなんだ。ケン・ウィルバーの立場は、一つの大きな原則があるんだ。誰もが正しいということ。私を含む誰もが真理のある部分を持っているんだ。例えば占いは迷信のように思えるかもしれないが、そのなかにだって真理は含まれているんだ。すべては尊重されて、それにふさわしい場所につけて温かく包み込む理論なんだ